

富教生第1132号

令和6年3月4日

富津市文化財審議会

会長 杉山 林繼様

富津市教育委員会



第11次富津市文化財指定について（諮問）

のことについて、富津市文化財の保護に関する条例第4条第3項の規定により下記のとおり諮問します。

記

本市の重要な文化財と考えられる下記の候補物件を、市の文化財に指定することについて

1. 竹岡観音堂板碑 1基（竹岡地区）
2. 岩坂板碑 1基（岩坂地区）
3. 長秀寺板碑群 6基（富津・長秀寺）

富津市指定文化財候補物件調査票

指定区分	有形文化財 考古資料
名 称	竹岡観音堂板碑
所 在	富津市下飯野 2443 番地
管理者または所有者	富津市教育委員会
適用指定基準	本市域の考古資料として、また中世の歴史的資料として貴重なもの
内容及び特色	<p>本板碑は、緑泥片岩製の武藏型板碑で、富津市竹岡の観音堂墓地に残されたものである。現状では、周縁部が大きく削られて原形は失われているものの、主尊の阿弥陀如来（キリーク）と脇侍の觀音菩薩（サ）・勢至菩薩（サク）の種字、及び紀年銘は明瞭に残されている。種字の彫りも深く明瞭で、古い様相が認められる。なお、裏面の線刻「念佛」は、表の文字とは異なることから追刻と考えられる。</p> <p>紀年銘は「正応□年 十一月七日」で、鎌倉時代後期の正応年間（1288～1293）の板碑であることは間違いない。房総半島南部では、鋸南町信福寺の正和5年（1316）板碑、館山市稻地区の元応元年（1319）板碑は知られているが、本資料は、さらに遡る事例となる。現時点では、南房総地域で最古級の板碑として評価できる。</p> <p>原形が大きく失われている点は惜しまれるが、南関東における初期の板碑の分布を考えるうえで重要な資料であり、かつ、中世初期、鎌倉時代における富津市内・竹岡地区と、他地域との交流・物流を具体的に物語るものもある。</p>

(調査者： 笹生 衛)

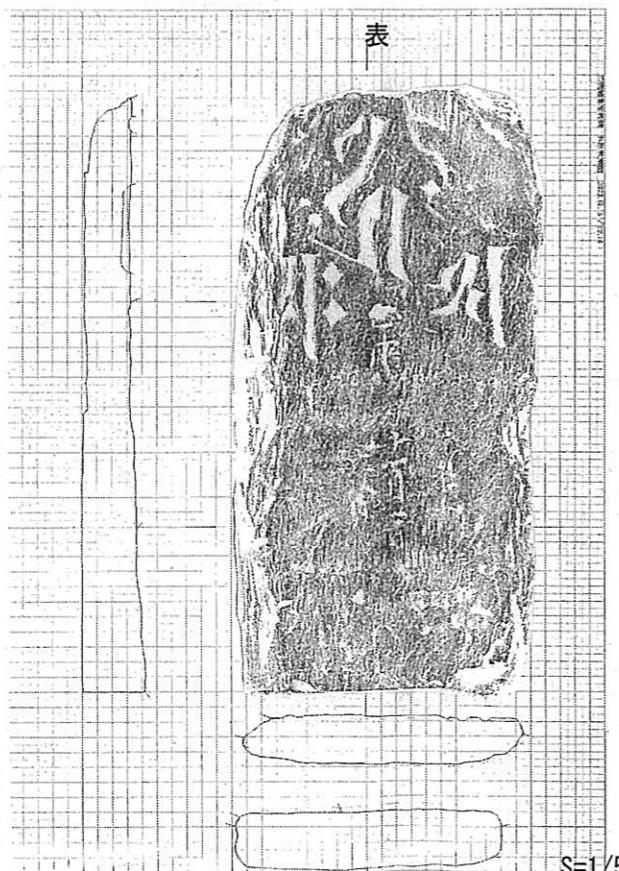
竹岡觀音堂板碑 1点

法量(cm) <遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<39.5>	<19.0>	整形3.5 基部4.3	阿弥陀三尊 正応〇年 十一月七日

裏



表



S=1/5

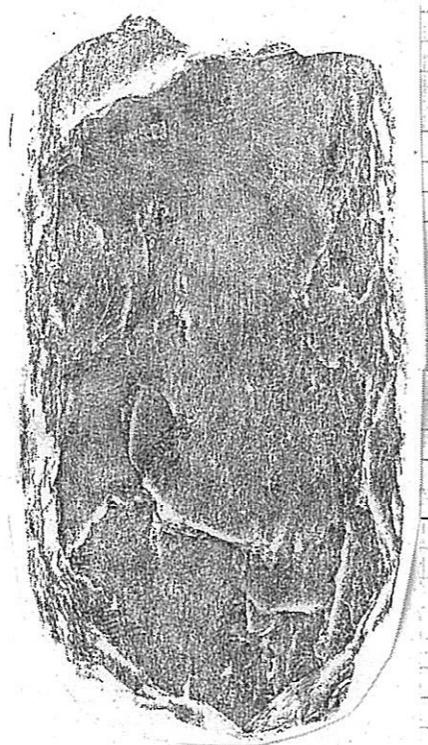
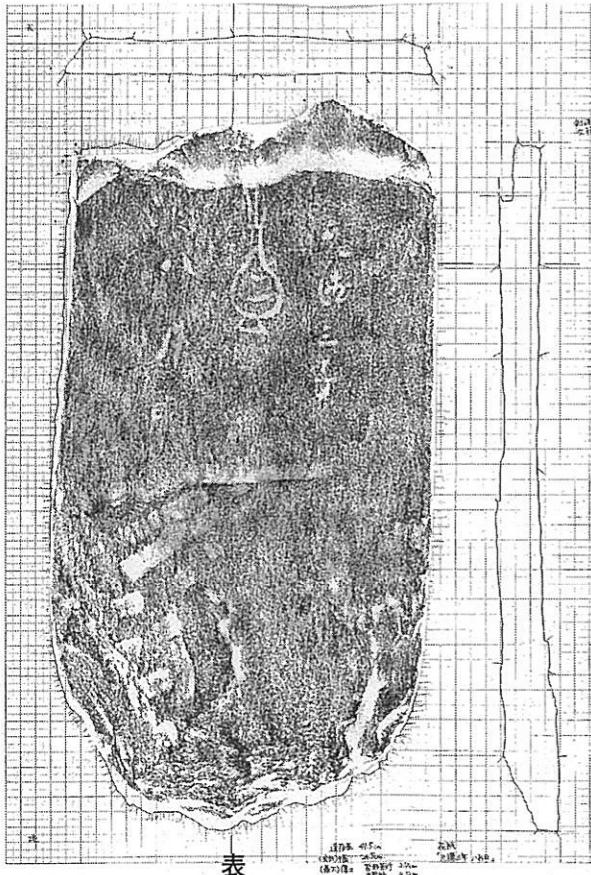
富津市指定文化財候補物件調査票

指定区分	有形文化財 考古資料
名 称	岩坂板碑
所 在	富津市下飯野 2443 番地
管理者または所有者	富津市教育委員会
適用指定基準	本市域の考古資料として、また中世の歴史的資料として貴重なもの
内容及び特色	<p>本板碑は、緑泥片岩製の武藏型板碑である。富津市岩坂の大満横穴群付近の水田中で発見され、大満横穴群内に納められていたと伝えられる。</p> <p>上半部は欠損し主尊は不明であるものの、下半部中央に華瓶を表現し、右に「元徳三年」、左に「八月 日」の年月を明瞭に読むことができる。元徳三年（1331）は、富津市内では正応年間の竹岡観音堂板碑につぐ鎌倉時代の事例である。</p> <p>大満横穴群の第Ⅲ支群第 3 号横穴の羨道には五輪塔の線刻が残されており、大満横穴群調査報告書には「岩坂横穴古墳中のいずれかに、板碑数枚が並んでいたとの伝承の聞き書きあり」とある。大満横穴群は、古墳時代の横穴を中世の納骨墓「ヤグラ」に転用していたと考えることができ、本資料も、これと密接に関係する可能性が高い。</p> <p>「ヤグラ」は、鎌倉の影響を受けた葬法として南房総に広く分布することが知られており、その「ヤグラ」と武藏型板碑の関係を知る上で貴重な事例である。鎌倉や武藏地域との関係のなかで形成された富津市内の葬送の姿を具体的に物語る数少ない資料としても本資料は重要である。</p> <p>〔参考文献〕 岩坂大満横穴群調査団 1973 『大満横穴群調査報告』</p>

(調査者： 笹生 衛)

岩坂板碑 1点

法量(cm) <遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<47.5>	24.5	整形2.7 基部3.5	花瓶 元徳三年 八月日



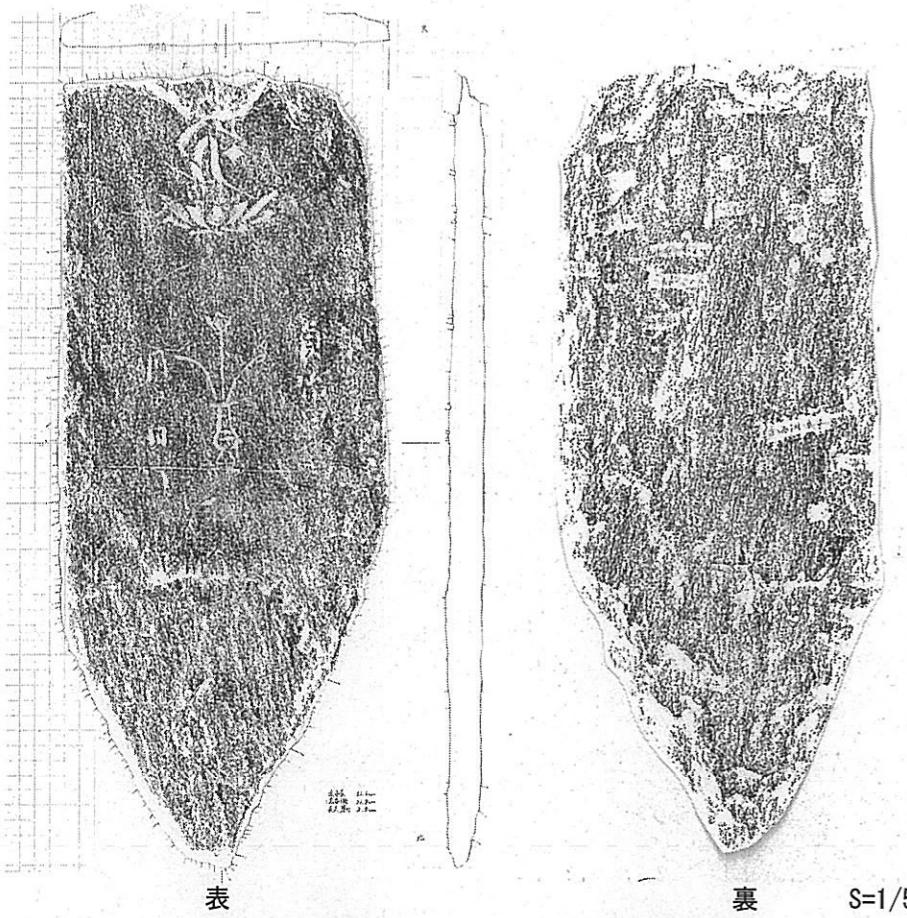
S=1/5

富津市指定文化財候補物件調査票

指定区分	有形文化財 考古資料
名 称	長秀寺板碑群
所 在	富津市富津 169 番地 1
管理者または所有者	宗教法人 長秀寺（住職：大森俊栄）
適用指定基準	本市域の考古資料として、また中世の歴史的資料として貴重なもの
内容及び特色	<p>本板碑群は、富津の長秀寺に伝えられたものである。ただし、長秀寺は、徳川氏の関東入部に伴った家臣、小笠原信元が天正年間に開基した寺院であり、本資料は、当初から同寺に伝えられた板碑群ではない。</p> <p>長秀寺には、天正 12 年（1584）建立の信元母の墓があり、同寺の場所には寺院開基以前から墓所が営まれており、本資料の板碑は、そこに建てられていた可能性が高い。</p> <p>現在、残されている板碑は 6 点、いずれも旧武藏地域産の緑泥片岩製の武藏型板碑で、大きく 2 タイプに分類できる。</p> <p>一つは、主尊の阿弥陀如来（キリーケ）を蓮華座上に表現し、脇侍の觀音菩薩（サ）・勢至菩薩（サク）を配置し、もう一つのタイプは、蓮華座上の主尊の阿弥陀如来と、華瓶と蓮華を表現するものである。</p> <p>年代が明確な例は、主尊と華瓶を表現するタイプで、貞治 4 年（1365）と永和年間（1375～1379）の年号が確認でき、本板碑群は南北朝時代頃に一つの中心があったと推定できる。</p> <p>緑泥片岩製の武藏型板碑の房総半島南部での分布は限られており、富津地域で複数の武藏型板碑がまとまって残された例は殆どなく、中世の物流を考えるうえで極めて重要である。</p> <p>板碑が残されていた富津は、応安 3 年（1370）10 月 3 日付け「波多沢村検見帳目六事」に「ふんとの といれう」の記載があり、南北朝時代には富津「ふんと」は「問」の存在した物流拠点であったと考えられ、本板碑群も中世の物流拠点としての富津を語る上で重要な意味をもつといってよいだろう。</p> <p>〔参考文献〕</p> <p>富津市 1980 『富津市史 史料集二』「第四編 金石文」</p> <p>富津市 1982 『富津市史 通史編』</p>

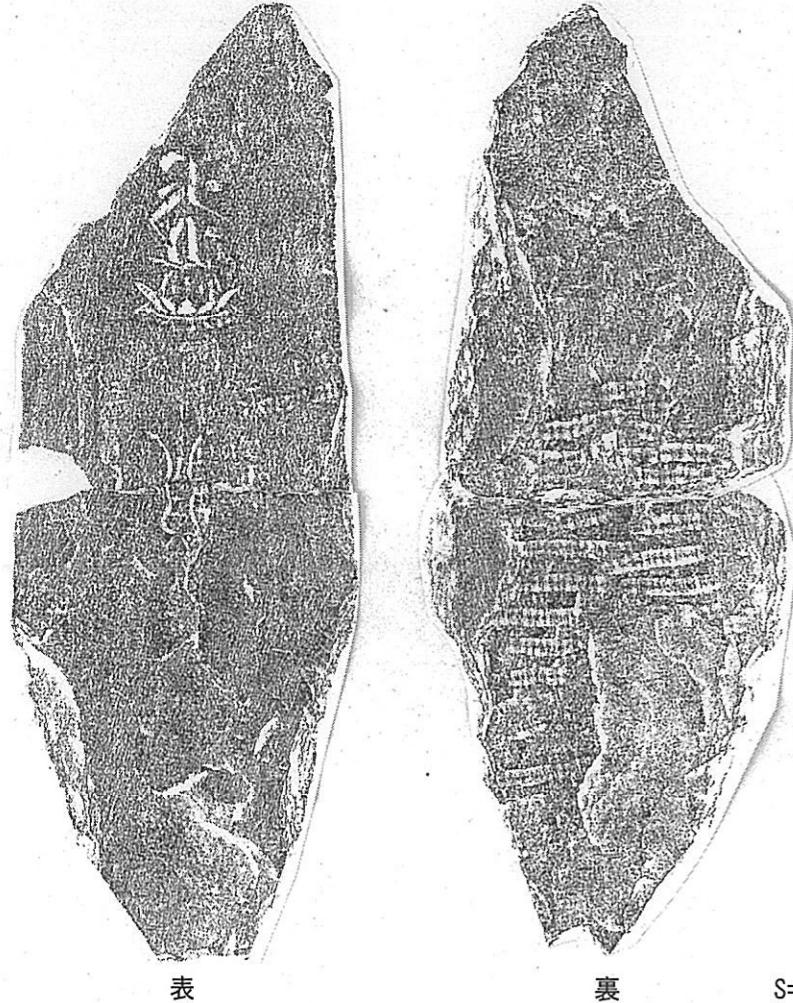
（調査者：笹生 衛）

富津長秀寺板碑群 6 点



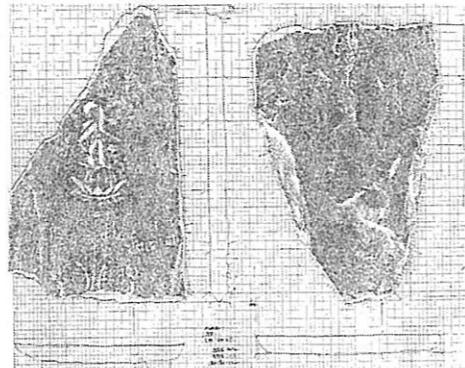
富津長秀寺板碑群①

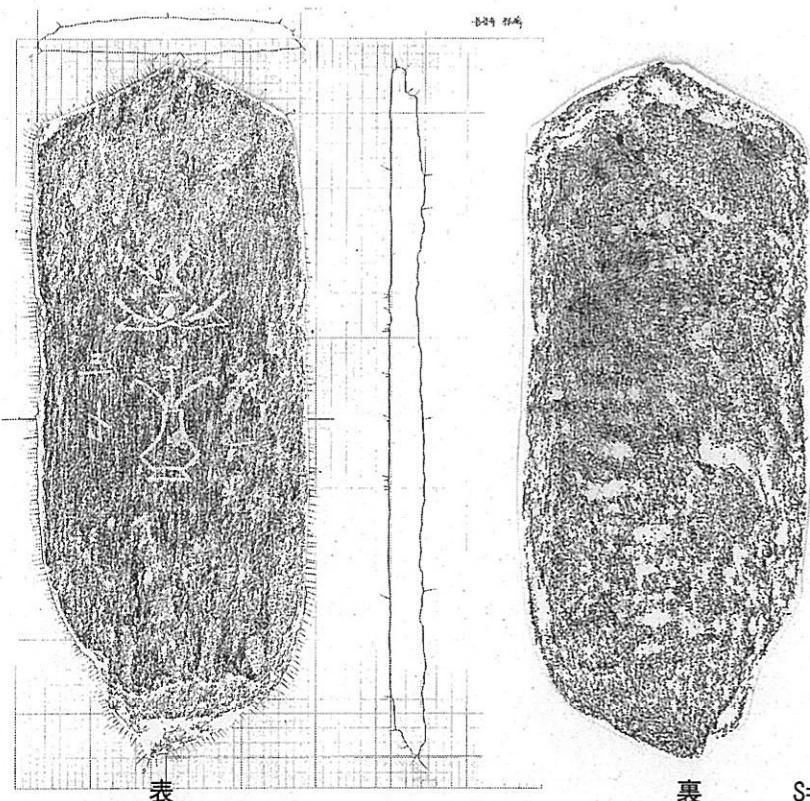
法量(cm)<遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<52.6>	21.8	2.5	阿弥陀如來 蓮華座 花瓶 貞治四月日



富津長秀寺板碑群②

法量(cm)<遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<76.7>	27.0	2.2	阿弥陀如來 蓮華座 花瓶 永和三口





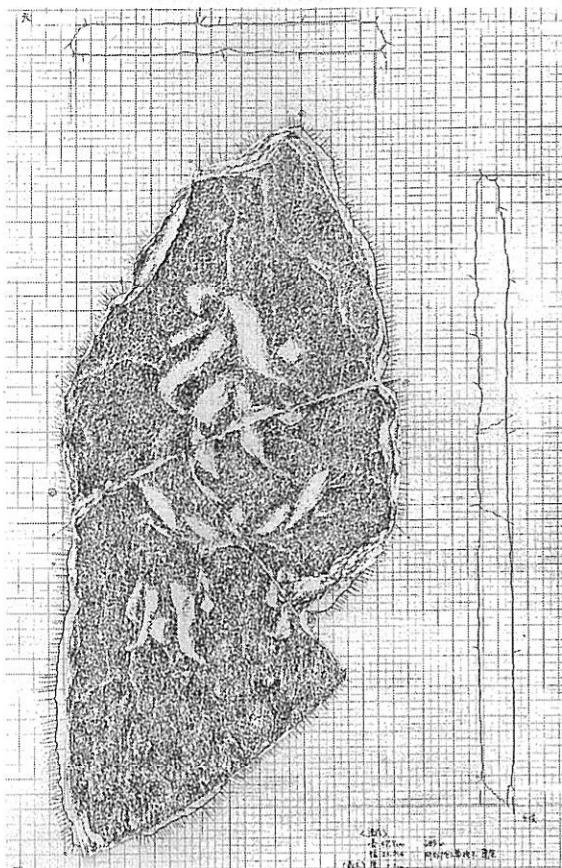
表

裏

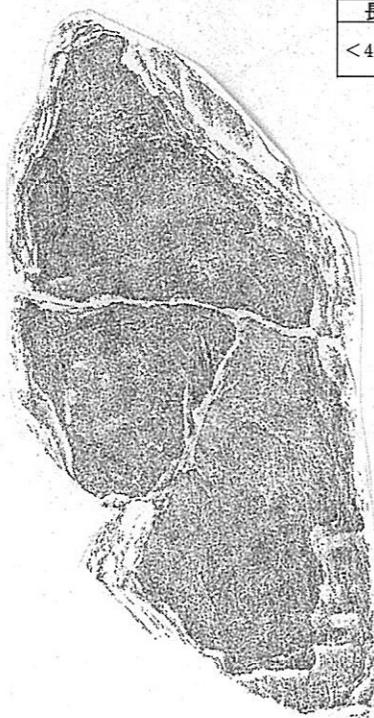
S=1/5

富津長秀寺板碑群③

法量(cm)<遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<45.5>	17.5	2.2	蓮華座 花瓶 三年



表

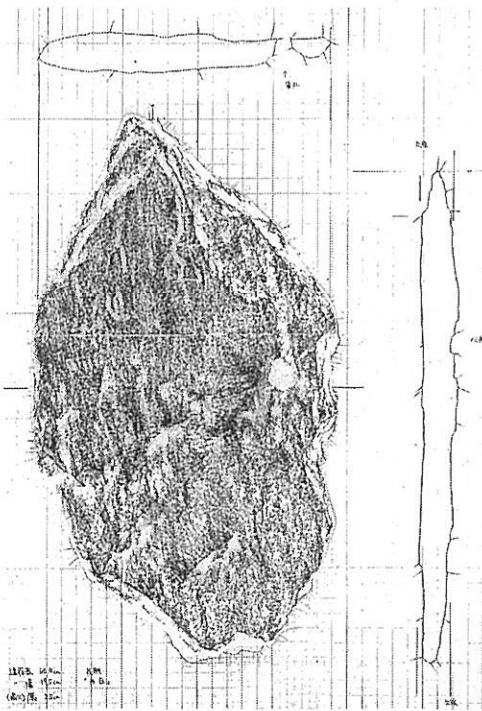


裏

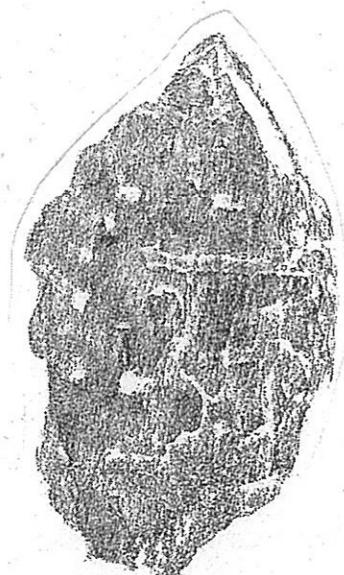
富津長秀寺板碑群④

法量(cm)<遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<47.7>	<22.3>	2.3	阿弥陀三尊 蓮華座

S=1/5



表



裏

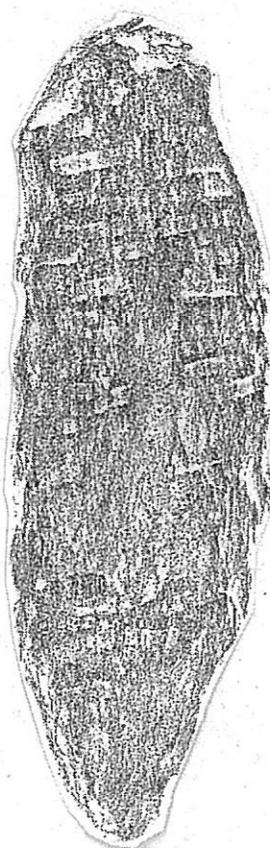
S=1/5

富津長秀寺板碑群⑤

法量(cm)<遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<36.3>	<19.5>	2.5	花瓶 月 日



表



裏

富津長秀寺板碑群⑥

法量(cm)<遺存長>			刻銘
長さ	幅	最大厚	
<54.0>	<16.3>	2.5	不明

S=1/5



承 諾 書

令和 6 年 2 月 9 日

富津市教育委員会様

住 所 富津市富津 169-1

氏 名 宗教法人長秀寺
代表役員
大森俊栄



私の所有（占有、保持、管理）する下記の文化財を、貴委員会が富津市指定文化財に指定することを承諾します。

記

名 称 長秀寺板碑群

員数（面積）等 6 点

所 在 地 富津市富津 169 番地 1

富文審第3号
令和6年3月14日

富津市教育委員会様

富津市文化財審議会

会長 杉山林



第11次富津市文化財指定について（答申）

令和6年3月4日付け富教生第1132号にて諮問のありました標記の件について、調査を行った結果、文化財的・歴史的価値が認められたので、諮問どおり指定するよう答申します。